

「新やまなしの教育振興プラン」評価指標 点検・評価表

| No | 担当課 | 指標の概要 | 基準値 | H30年度の 目標値 | H28年度の 実績値 | 進捗率 (%) | 今後の方針 | |
|------------------------------------|-------|---|----------|---------------|---------------|------------|---|---|
| 【基本方針1】世界に通じ、社会を生き抜く力を育成します | | | | | | | | |
| 1 | 義務教育課 | 【キャリア教育・職業教育の充実】 キャリア教育に関する年間指導計画を作成している学校の割合 | (H24) | | | | ○職場体験の質的・量的な充実を引き続き進めていくとともに、年間計画のPDCAを確立し、見直しが行われるようにしていく。 | |
| 2 | | | 小 63 % | 小 100.0 % | 小 100.0 % | 100.0 | | |
| 3 | 高校教育課 | 【キャリア教育・職業教育の充実】 各体験プログラムの「生徒評価シート」において「有意義であった」と回答した生徒の割合 | (H24) | 高 90.0 % | 高 90.0 % | 100.0 | ○引き続きライフプラン小中高推進事業、ライフプランニング力育成事業、高校生体験型学習推進事業を実施していく。 | |
| 4 | 高校教育課 | 【キャリア教育・職業教育の充実】 工業系高校2・3年生の技能検定等の資格取得者延べ人数の割合 | (H24) | 高 53.9 % | 高 65.0 % | 高 79.1 % | 227.0 | ○「工業系高校生実践的技術力向上事業」を通じ、技能検定2級受検者・取得者数の増加を目標に取り組んでいく。 |
| 5 | 義務教育課 | 【伝統・文化に関する教育の推進】 郷土学習実施状況調査における郷土学習教材を活用して郷土学習を実施している学校の割合 | (H24) | | | | ○新たな郷土学習教材を全ての児童生徒が読むようにしていくとともに、郷土学習コンクール・実践研究発表大会の内容をより充実させていく。 | |
| 6 | | | 小 96 % | 小 100.0 % | 小 100.0 % | 100.0 | | |
| 7 | 高校教育課 | 【伝統・文化に関する教育の推進】 「山梨に生きる」活用状況アンケートにおける教材「山梨に生きる」を活用している高校の割合 | (H24) | 高 72.2 % | 高 80.0 % | 高 65.7 % | -83.3 | ○多忙化改善の視点に立ち、学習素材としての活用を各校に促す中で活用事例の収集に努め、周知を図っていく。 ○課題解決学習のテーマ設定における導入、本教材のデータ更新を生徒に調べさせるなど、教材使用の工夫についても提示する。 ○各校のニーズを踏まえた補助教材等について検討する。 |
| 8 | 義務教育課 | 【情報教育の充実とICT環境の整備】 「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」における児童生徒のICT活用を指導する能力を持つ教員の割合 | (H24) | | | | ○あらゆる機会を通じ、各教師のICT指導能力を高めていくとともに、ICT機器の整備についても進めていく。 | |
| 9 | | | 小 65.0 % | 小 70.0 % | 小 77.1 % | 242.0 | | |
| 10 | | | 中 62.1 % | 中 70.0 % | 中 67.7 % | 70.9 | | |
| 10 | 高校教育課 | | (H24) | 高 63.1 % | 高 75.0 % | 高 68.0 % | 41.2 | ○スマートフォンを活用や、優れた学習ソフトの活用など、手間をかけずに実践できる事例を積み重ね、その周知に努めていく。 ○総合教育センターと連携を図る中で、教員の資質向上に資する研修、実践事例紹介、各校のICT使用に関するサポートに努めていく。 |
| 11 | 義務教育課 | 【情報教育の充実とICT環境の整備】 「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」における情報モラルなどを指導する能力を持つ教員の割合 | (H24) | | | | ○合同指導主事会議において、学校における教育の情報化の実態について情報提供するとともに、各指導主事の学校訪問において、各学校に情報モラル教育の充実を依頼していく。 | |
| 12 | | | 小 76.6 % | 小 80.0 % | 小 83.4 % | 200.0 | | |
| 12 | | | 中 72.7 % | 中 80.0 % | 中 79.4 % | 91.8 | | |
| 13 | 高校教育課 | | (H24) | 高 68.6 % | 高 80.0 % | 高 79.6 % | 96.5 | ○学校訪問や教科訪問等で、情報モラルに関して、カリキュラムマネジメントの視点から、LHRや各科目との連携など、教科横断的な授業展開を提言して、情報モラルを指導する能力を持つ教員を増やしていく。 |

「新やまなしの教育振興プラン」評価指標 点検・評価表

| No | 担当課 | 指標の概要 | 基準値 | H30年度の目標値 | H28年度の実績値 | 進捗率 (%) | 今後の方針 |
|------------------------------------|----------|---|-------------------------------|----------------------|----------------------|---------|---|
| 【基本方針2】 確かな学力と自立する力を育成します | | | | | | | |
| 14 | 義務教育課 | 【基礎的・基本的な知識・技能の習得の推進】 【思考力・判断力・表現力等の育成】 全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙における「国語と算数・数学の勉強は好きだ」という質問に対して「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と答えている児童生徒の割合 | (H25) 59.4 % | 65.0 % | 61.8 % | 42.9 | ○学力向上総合対策事業の成果と課題を検証し、「授業改善、教師の資質向上、家庭・地域との連携等」に継続して取り組んでいく。 |
| 15 | 総合教育センター | 【言語活動の充実】 言語活動の充実に関わる教員の研修会のアンケートにおける満足度（有用感）の割合 | (H24) 93.9 % | 96.0 % | 96.2 % | 109.5 | ○授業改善のより一層の進展につなげられるように、研修内容の改善・充実を図っていく。 |
| 16 | 高校教育課 | 【言語活動の充実】 「山梨県高等学校教育研究会学校図書館部会」で毎年出している「学校図書館白書」の「図書館利用統計」のうち、図書館の授業利用時間数 | (H24) 県立高校30校の平均 100 時間 | 県立高校29校の平均 120 時間 | 県立高校29校の平均 119 時間 | 95 | ○引き続き、図書館研究協議会における指導助言、司書部会、司書教諭部会に対する情報提供と課題改善に対する指導・提案を推進していく。 |
| 17 | 高校教育課 | 【理数教育の充実】 参加生徒のアンケートにおいて、「科学への興味関心が高まり、今後の学習意欲が向上した」と回答した生徒の割合 | (H24) 高 92.1 % | 高 95.0 % | 高 94.4 % | 79.3 | ○交流や競技種目の内容を一層充実させるとともに、参加者の交流の場を設けるなど新たな取組を検討し、生徒たちの興味関心及び科学的探究心が更に育つよう充実した大会を目指す。 |
| 【基本方針3】 豊かな心と自己実現を図る力を育成します | | | | | | | |
| 18 | 義務教育課 | 【読書活動の充実】 「国語力・読解力育成の取組状況に関するアンケート調査」における児童生徒1人当たりの学校図書館からの貸出冊数（1ヶ月平均） | (H24) 小中 6.6 冊 | 小中 7 冊 | 小中 6.9 冊 | 75 | ○読書活動推進校の取組例だけでなく、全国学力学習状況調査などのデータを用いて、積極的な読書活動への取組を促していく。 |
| 19 | 義務教育課 | 【いじめ・不登校対策の充実】 「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における公立学校のいじめの解消率 | (H24) 小中 83.6 % | 小中 94.5 % | 小中 94.9 % | 103.7 | ○いじめの「重大事態」に対応するためにも、管理職研修会、生徒指導主事研修会等の機会に、適切ないじめ対応についての周知を図っていく。 ○スクールカウンセラー等による教育相談体制の充実を図るとともに、児童生徒を取り巻く教育環境の更なる改善に向けて、諸機関をつなぐスクールソーシャルワーカーの活用を図っていく。 |
| 20 | 高校教育課 | ※出典となる文部科学省調査の項目が平成28年度から変更されたため、変更後の項目に基づき、基準値、目標値を修正 | (H24) 高 76.6 % | 高 91.2 % | 高 90.2 % | 93.2 | ○スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー事業を活用するとともに、児童相談所や医療機関と連携するなど、教育相談体制の確立を図り、いじめの解消につなげていく。 ○スマホやSNS等によるいじめ防止のため、インターネット利用に関するルール作りを推進する。 ○学校のホームページ活用し、いじめや悩み相談ができるような環境整備についても検討する。 |
| 21 | 義務教育課 | 【いじめ・不登校対策の充実】 「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における公立学校の不登校児童生徒の再登校率 | (H24) 小中 21.9 % | 小中 25.0 % | 小中 24.7 % | 90.3 | ○スクールソーシャルワーカーの活用を促進するとともに、自校の児童生徒の実態を把握する中で、個別指導やグループ別指導等により、全ての児童生徒が安心して活躍できる場面を設定していく。 |
| 22 | 高校教育課 | | (H24) 高 41.9 % | 高 45.0 % | 高 29.3 % | -406.5 | ○夜間定時制の教育相談体制の充実を図り、不登校の防止に努める。 ○スクールソーシャルワーカーとの連携、児童相談所等との情報の共有など専門機関と連携する中で解決に結びつけていく。 ○保健室登校などの柔軟な対応に努めるとともに、研修等により、教職員の教育相談に関するスキル向上を図る。 ○様々な体験活動を通じて、自己肯定感につながる学習活動の実践に努めていく。 |

「新やまなしの教育振興プラン」評価指標 点検・評価表

| No | 担当課 | 指標の概要 | 基準値 | H30年度の目標値 | H28年度の実績値 | 進捗率 (%) | 今後の方針 |
|---|--------------|---|------------|------------|------------|---------|--|
| 【基本方針4】健康で豊かな生活を営むことができる「やまなしスポーツ」を創出します | | | | | | | |
| 23 | スポーツ健康課 | 【子どものスポーツ機会の充実】 「山梨県新体力テスト・健康実態調査」における授業以外でほとんど毎日（週3回以上）、運動やスポーツを実施している小学生（4・5・6年生）の割合 | (H24) | | | | ○健康体力づくり一校一実践運動等の取組を通じ、子どもたち運動量の増加を図り体力向上につなげていく。 |
| 24 | | | 男 59.3 % | 男 65.0 % | 男 57.4 % | -33.3 | |
| 25 | スポーツ健康課 | 【ライフステージに応じたスポーツ活動の推進】 1年間に一度もスポーツをしない者の割合 | (H24) | | | | ○県政モニターによる運動スポーツに関する意識調査結果や、協議会における課題を踏まえ、身近な地域スポーツ活動の充実を図っていく。 |
| 26 | スポーツ健康課 | 【健やかな体の育成】 「山梨県新体力テスト・健康実態調査」における朝食を毎日食べる子どもの割合 小学6年 中学3年 高校3年（全日制） | (H24) | | | | ○研修会等において、朝食の重要性や家庭への伝え方の指導を行うなど、各学校の取り組みを支援していく。 |
| 27 | | | 小・男 91.1 % | 小・男 95.0 % | 小・男 89.3 % | -46.2 | |
| 28 | | | 小・女 91.7 % | 小・女 95.0 % | 小・女 91.1 % | -18.2 | |
| 29 | | | 中・男 85.7 % | 中・男 90.0 % | 中・男 82.6 % | -72.1 | |
| 30 | | | 中・女 87.5 % | 中・女 90.0 % | 中・女 83.6 % | -156.0 | |
| 31 | 高・男 79.7 % | 高・男 85.0 % | 高・男 82.3 % | 49.1 | | | |
| 31 | 高・女 85.8 % | 高・女 88.0 % | 高・女 85.5 % | -13.6 | | | |
| 32 | スポーツ健康課 | 【競技力の向上】 国民体育大会における 天皇杯900点 | (H24) | | | | ○競技団体との強化会議を開催し、具体的な選手のピックアップ、ふるさと選手を含めた選手選考、具体的な強化策の考案等、早期の情報収集からの強化を図っていく。 |
| 33 | | | 751 点 | 900 点 | 954 点 | 136.2 | |
| | | 順位20位台 | 41 位 | 20 位台 | 23 位台 | 150.0 | |
| 【基本方針5】一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育の充実に向けて取り組みます | | | | | | | |
| 34 | 高校改革・特別支援教育課 | 【特別支援学校における支援体制の整備】 県立特別支援学校高等部の新卒生徒の就職率 | (H24) | | | | ○新たな企業開拓をさらに進めるとともに、特別支援学校の進路指導部において情報共有を図り、職業教育及び進路指導の充実を図っていく。 |
| 35 | 高校改革・特別支援教育課 | 【就学前・小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実】 一人ひとりの児童生徒の教育的ニーズに応じ、関係機関が連携して適切な指導を行うための「個別的教育支援計画」を作成している学校の割合 | (H24) | | | | ○一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導を行うため、「個別的教育支援計画」の作成や活用方法の改善を引き続き図っていく。 |
| 36 | | | 小 78 % | 小 90.0 % | 小 85.3 % | 60.8 | |
| 37 | | | 中 78 % | 中 90.0 % | 中 85.4 % | 61.7 | |
| 38 | 高校改革・特別支援教育課 | 【教員の専門性の向上】 小・中・高等学校の全教員について、特別支援教育に関連した研修会及び講習会を受けた割合 ※出典となる文部科学省調査の項目が、平成28年度に実施されなかったため、直近（H27）データを記載 | (H24) | | (H27) | | ○引き続き、総合教育センターと協力しながら研修内容を周知していくとともに、校内研修会への講師を積極的に務め、通常学級の担任への周知を図っていく。 |
| 39 | | | 小 72 % | 小 90.0 % | 小 83.1 % | 61.7 | |
| 40 | | | 中 58 % | 中 90.0 % | 中 60.9 % | 9.1 | |
| | | 高 46 % | 高 90.0 % | 高 60.7 % | 33.4 | | |
| 【基本方針6】子どもたちが安全に安心して学ぶことができる教育環境づくりに取り組みます | | | | | | | |
| 41 | 義務教育課 | 【学校運営システムの充実】 教育活動に係る自己評価に対する学校関係者評価を実施・公表している学校の割合 (高校は100%達成済み) | (H24) | | | | ○学校関係者評価の確実な実施と、その質を高めるために、指導重点説明会や管理職研修会等の機会を利用して周知していく。 |
| 42 | | | 小 88 % | 小 95.0 % | 小 100.0 % | 171.4 | |
| | | 中 86 % | 中 95.0 % | 中 97.5 % | 127.8 | | |

「新やまなしの教育振興プラン」評価指標 点検・評価表

| No | 担当課 | 指標の概要 | 基準値 | H30年度の目標値 | H28年度の実績値 | 進捗率 (%) | 今後の方針 |
|--|---------|---|----------------------|-------------|-------------|------------|--|
| 【基本方針7】 すべての子どもが生き生きと学ぶことができる質の高い魅力ある学校づくりの実現を目指します | | | | | | | |
| 43 | 高校教育課 | 【教員の資質能力・実践的指導力の向上】 (独)教員研修センター主催の研修及び県内企業研修に参加した専門学科の教員数(延べ数) | (H24) 252 名 | 270 名 | 271 名 | 105.6 | ○県内企業、大学講師の他、研修受講者による伝達講習を実施することで、職員全体の資質向上を図っていく。 |
| 44 | 高校教育課 | 【異校種間交流・連携の推進】 教員や生徒による小中学生への授業等を実施している高校の割合 | (H24) 75 % | 90.0 % | 75.8 % | 5.3 | ○引き続き、中学生を対象としたオープンスクール等での体験授業、実習、部活動体験などを実施する。 ○中高の円滑な接続となるよう、中学校と高校の教員が指導について協議するような場を設けることについて検討する。 ○定時制高校においては、体験入学の継続実施に加え、自校の強みを積極的に中学校に発信するよう努めていく。 |
| 【基本方針8】 家庭・地域・学校が連携した教育の実現に取り組みます | | | | | | | |
| 45 | 義務教育課 | 【幼児教育の充実】 保育所や幼稚園等との子ども同士の交流活動と教職員の交流を行った小学校の割合 | (H24) 89.6 % | 95.0 % | 95.9 % | 116.7 | ○未実施であった学校や園への個別な指導や支援を行っていくとともに、地域の実態に応じた連携の在り方について、教育課程への位置付けを呼びかけていく。 |
| 46 | 社会教育課 | 【家庭教育支援の充実】 子育て支援リーダー・ステップアップ講座等の修了者数 ※平成28年度より「子育て支援リーダー実力アップ講座」に変更 | (H24) 149 人 | 350 人 | 282 人 | 66.2 | ○引き続き、子育て支援に関する喫緊の課題を的確に把握し、その内容を生かした講座を開催するとともに、子育て支援者同士が地域の子育て支援に関する情報を共有し、相互に交流することが可能となるネットワークの拡大を図っていく。 |
| 【基本方針9】 生涯にわたり学び続けることができる環境づくりの実現に取り組みます | | | | | | | |
| 47 | 生涯学習文化課 | 【多様な学習機会の提供及び生涯学習推進体制の充実】 生涯学習推進センターの利用者数 | (H24) 15,997 人 | 17,000 人 | 24,458 人 | 843.6 | ○講座等の開催方法や中身を充実させるとともに、関係団体等と連携することにより、講座受講者の更なる獲得を図っていく。 |
| 48 | 社会教育課 | 【生涯学習環境の充実】 山梨県図書館情報ネットワークデータ件数 | (H24) 4,747,264 件 | 5,223,000 件 | 5,161,984 件 | 87.2 | ○県民の利便性を高め、生涯学習環境の充実を図っていく。 |
| 【基本方針10】 県民一人ひとりが豊かな人生を送るための文化芸術の振興を進めます | | | | | | | |
| 49 | 生涯学習文化課 | 【文化芸術活動への支援】 県民の文化芸術活動の発表及びその鑑賞の場である県民文化祭への参加者数 | (H24) 241,796 人 | 245,000 人 | 291,735 人 | 1558.6 | ○これまでの取り組みに加え、文化の祭典でもある東京オリンピック・パラリンピックに向けて、日本文化の発信や若手育成などを図る事業を展開し、芸術文化の振興を一層図っていく。 |
| 50 | 高校教育課 | 【文化芸術に親しむ機会の充実】 文化部の活動を充実させるために行われている高校芸術文化祭への参加人数(延べ数) | (H24) 23,000 人 | 24,000 人 | 20,836 人 | -216.4 | ○教科、産業教育による学習を通じて、文化への興味、関心を高める実践に努める。 ○地域の文化活動・文化資源や人材の活用により、生徒が進んでやまなしの文化芸術の魅力を発見する機会を増やす。 ○全国高等学校総合文化祭は、全国の高校生徒の交流の場であることを周知することで、動機付けにつなげる。 |
| 51 | 学術文化財課 | 【文化財の保存と継承】 平成26年度以降、新たに指定となった県内の国・県指定文化財の件数 | - | 25 件 | 17 件 | 68.0 | ○引き続き、指定候補物件について、新規指定に向け、「国・県文化財指定、解除等候補一覧」に基づき、計画的に調査等を実施し、指定文化財の増加に努める |